

令和5年度第1回住吉区区政会議

1 日時：令和5年6月30日（金） 午後6時30分～午後8時10分

2 場所：住吉区役所4階 大会議室

3 出席者

委員：桶土井晴英委員、繁田文三委員、島谷裕美子委員、菅原正二委員、田中貞夫委員、谷山圭子委員、佃井敏通委員、辻野けんま委員、中野薫委員、浜田眞里子委員、東美智代委員、福留千佳委員、榊野隆平委員、山本讓委員、渡邊博彦委員

区役所：平澤宏子（区長）、樋口幸生（副区長）、田中斉（総務課長）、中野泰裕（政策推進課長）、山田美奈子（教育文化課長）、小林資明（地域課長）、小西宏樹（保健福祉課長）、稲岡訓規（生活支援課長）、福田利明（保健子育て担当課長）、山尾貴彦（住民情報課長）、仲間いずみ（保健主幹）、北野陽一（総務課長代理）

4 議題

（1）報告事項

- ・令和4年度第3回住吉区総合教育会議について
- ・令和5年度第1回将来ビジョン検討会の振り返りについて

（2）協議事項

- ・令和4年度住吉区運営方針の振り返りについて

5 発言者及び発言内容は以下の通り

【北野（司会）】 ただいまより、令和5年度第1回住吉区区政会議を開催いたします。本日はお忙しい中、住吉区区政会議にご出席をいただき、ありがとうございます。

本日、司会を務めさせていただきます政策推進課長代理の北野でございます。よろしくお願いたします。

それでは、開催に当たりまして、平澤区長よりご挨拶申し上げます。

【平澤区長】 皆さん、こんばんは。住吉区長の平澤です。遅い時間に集まってくまきて、ありがとうございます。また、平素より住吉区政にご理解、ご協力をいただき

まして、ありがとうございます。

今年度に入りまして1回目の区政会議ということになります。ただ、5月には将来ビジョンの検討会もしていただいておりますので、何かもう2回目のようなイメージをお持ちかもしれませんが、区政会議としては本日が第1回ということになります。

本日メインの協議事項といたしましては、令和4年度の運営方針の振り返りをするということになっております。ビジョンの関係につきましては、資料のほうも机の上に置いておりますけれども、メインは7月の第2回のビジョン検討会のほうでご議論いただくというふうに考えておまして、本日は本当に久々にグループディスカッションのない形という区政会議になっております。グループには分かれませんが、忌憚のないご意見をどんどん出していただけたらと思っておりますので、本日もどうぞよろしくお願いたします。

【北野（司会）】 会議を始めるに当たりまして、皆様にお願がございます。この区政会議は条例に基づく会議となっております。後日、会議録等を公開いたします関係上、録音並びに写真撮影をさせていただきますので、ご了承いただきますようよろしくお願いいたします。

また、大阪市ではデジタルツールを最大限活用した区政会議の推進の取組の1つとして、区政会議の様子をYouTubeにて公開するウェブ傍聴の実現をめざしております。今回の第1回区政会議については公開する予定はございませんが、第2回区政会議以降の運用の参考とするため、会議の様子を録画しておりますので、こちらもご了承いただきますようよろしくお願いいたします。

続きまして、市会議員の皆様におかれましては、条例第8条に「区政会議における議論に資するために必要な助言をすることができる」と規定されております。本日ご出席いただいております市会議員をご紹介します。くぼた議員でございます。

【くぼた議員】 お疲れさまです。よろしくお願いいたします。

【北野（司会）】 伊藤議員でございます。

【伊藤議員】 こんばんは、伊藤です。よろしくお願いいたします。

【北野（司会）】 井上議員でございます。

【井上議員】 お疲れさまでございます。

【北野（司会）】 ここで、本日の委員の出席状況ですが、委員定数24名のところ、現在13名のご出席をいただいております。条例第7条による定足数であります定数の2分の1

以上を満たしていることをここでご報告させていただきます。

それでは、以降の区政会議の議事進行を辻野議長にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

【辻野議長】 議長の辻野です。皆さん、お忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。久しぶりにこの、ぐるっと円になっての会議ということで、しかも何かユーチューブ配信を今後検討していくということだそうで、目の前にマイクがあったりとかして、ちょっと話しにくいかもしれませんが、いつもどおり闊達な議論ができればと思いますので、よろしくお願いします。

また、今日は実験ということなので、会議が終わった後にでも、ちょっとやりにくいところがあったりとか、お感じのことがあれば、遠慮なくお声がけいただけたら、今後の改善につなげていけたらいいかなというふうに思っています。

ちょっと個人的なお詫びなんですけども、私、器官が弱くて、のどあめをなめながら会議の進行をしますけれども、ちょっとそれだけご容赦いただきたいなど。何か、ある地方議会では答弁に立った人がのどあめをなめながらしゃべったら、不謹慎やというふうにバッシングされたそうですけど、器官が弱い、私、ぜんそくがあるんですけども、感染症じゃないので安心してください。ぜんそくなんですけど、器官が弱い人にとっては、しゃべりながらちょっと飲んだりとか、のどあめなめないと、げぼげぼなったりとかするので、それを言われるとつらいなみたいなので、そのバッシングされた議員さんの思いをはせたところがあったんですが、すみません。不謹慎だとか言わないようにしていただけたらうれしいなと思います。じゃあ、よろしくお願いします。

じゃあ、それでは本日の進め方を説明させていただきたいと思います。

まず、報告事項からとなるんですけれども、1点目は「令和4年度第3回住吉区総合教育会議について」、2点目の「令和5年度第1回将来ビジョン検討会」につきましては、会議の概要を報告していただくということになっています。

次に、協議事項になりまして、「令和4年度住吉区運営方針の振り返りについて」、こちらが中心議題になるわけなんですけども、時間の関係上、全ての項目が膨大な資料になりますので、これを全て説明いただくというのはちょっとできないと思いますので、区役所の方に特に重点を置いてそれぞれ説明いただいて、その後質疑の時間等持たせていただけたらと思います。なお、事前に意見を皆様にお伺いしているんですけれども、今回は特に事前意見がございませんでしたが、ご説明、直接いただいて、質疑ができたというふう

に思っていますので、よろしく願いいたします。

続きまして、本日の資料の確認をさせていただきたいと思います。資料右上の番号をご覧いただきまして、配付資料として①から⑥までございます。これと別に置かせていただいています封筒内の資料として、7月13日に開催を予定している第2回将来ビジョン検討会に、そこで使用する次期将来ビジョンの素案があります。本日は使用いたしません、お持ち帰りくださいということで、それまでに、第2回の将来ビジョン検討会までにお目通しいただけるとありがたいと思います。よろしく願いいたします。

何かお配りの資料で不足等ございましたら、ちょっとお知らせいただけますでしょうか。資料に不備等ございませんでしょうか。

じゃあ、そうしましたら、本日の会議は20時までを予定していますので、またよろしく願いいたします。

それでは、議事に入りたいと思います。

まず、報告事項からとなります。区役所より説明をお願いいたします。

【山田教育文化課長】 失礼いたします。教育文化課長の山田でございます。どうぞよろしく願いいたします。

令和4年度第3回住吉区総合教育会議のご報告をさせていただきます。

令和5年3月13日に行われました会議の概要でございます。議題につきましては、住吉区における主な教育・子育て関連事業についてのお話、それから情報提供といたしまして、令和5年度ヤングケアラーへの支援（全体像）、それから、学校の教育活動事例のご紹介をさせていただきました。

議論のポイントとなったことですが、まず、住吉区における主な教育・子育て関連事業の令和4年度事業の振り返りと令和5年度事業について説明し、委員の皆様から意見を聴取いたしました。その中で、私どもが作成しております「福祉ガイドブック」、これは不登校児童・生活家庭の支援のために作成している冊子でございます、特にこういった福祉の施策を、教職員がなかなか理解、知識を持つことが難しいというご提言から作成することに至ったものでございますが、それを学校がどのように役立てているか、区はちゃんと把握しているのかというご意見をいただきました。年度末に各学校園長へアンケートを実施し、活用しているその様子を私のほうからご説明をさせていただきました。

それから、こどもの将来のライフプラン支援事業についてもご意見を頂戴いたしました。これは住吉区が行ってまいりました、中学校に対しまして性教育のプログラムを提供して

いた事業でございます。これを説明させていただきましたところ、今後の区としての性、生きると書きまして、生の教育、それからインクルーシブ教育といいます、いろいろ、特別支援教育に関しての、それに関連するご意見を頂戴いたしました。このいただいた意見を教育委員会に反映してまいりますということで、ご説明をさせていただいたところでございます。

以上でございます。

【辻野議長】 ありがとうございます。

報告事項について何かご意見、質問等ございましたら、よろしくお願いいいたします。確認や感想等でも結構です。また、後ほどの振り返り等にもつながってくるかなと思いますので、よろしければ遠慮なくということではいかがでしょうか。

じゃ、お願いします。

【福留委員】 福留です。

区の考え方を説明というふうにおっしゃられたんですけども、よかったら少しその考え方というのをお聞きできたらいいなというふうに思いました。こどもの将来ライフプランの支援事業のところであつたりとかというところで、すみません。

【山田教育文化課長】 ありがとうございます。回答させていただいてよろしいでしょうか。

【辻野議長】 お願いします。

【山田教育文化課長】 実際に性教育を実施していることについては、大変ありがたい、素晴らしい事業だと思うということで総括はさせていただいております。ただ、いろいろ障がいをお持ちの方の中に、なかなか性的な問題を抱えておられる方、そんな子どもさんもいらっしゃるの、この事業について、できれば区役所のほうでもずっと進捗を見てほしいというようなことでございました。私どものほうからは、なかなか区役所で抱え切れる問題ではないということをお伝えをいたしました。ただ、今、区におきまして把握していることとして、学校が通級指導という、特別支援学級を通級指導という形で実施するように文科省からの指導を受けているようなことがございますので、インクルーシブ教育に関する関心も高くなっていることであるとか、住吉区との連携の機会があると思いますので、こういったご意見が出たということをお教育委員会に反映していきますというお話をさせていただきました。

以上でございます。

【福留委員】 ありがとうございます。

【辻野議長】 ご質問のご趣旨はそれでよろしかったですか。

【福留委員】 福留です。考え方とかが、方向性があるとのことだと思ってちょっと質問させていただいたんですけど、その質問に対してのことだというのが分かりました。ありがとうございます。

【辻野議長】 また後ほどの議論にもつながるかと思いますが、区としての全体的な教育の方針とか、そういうこともご質問の趣旨には含まれていたのかなというふうに今、私自身理解しました。また、じゃあ、後ほどの議論ということでもよろしいでしょうか。

ほかにご質問等ありますでしょうか。

1点だけ、私のほうから、この会議の、毎回丁寧にヤングケアラーとかソーシャルワーカー含めて幅広く議論していただいているなというふうに思っているんですけども、全国的に日本の統廃合とか、学校の、そういうような傾向ってあると思うんですけども、この住吉区においてはそういう議論があるのかないのかというのを、もし今分かれば教えていただきたいということと、分からなかったらもう次回で結構ですので、いかがでしょうか。つまり、学校が人口減を受けて廃校になったりとかという地区があるのかないのかとか、地域性とも関わって重要になってくるのかなと思いたので、伺わせてください。

【山田教育文化課長】 回答させていただきます。

今、住吉区におきましても子どもさんの数が減少傾向にあります。児童数をこれから注視していかないといけないと設定されている学校は2校ほど、小学校でございますが、まだその統廃合を急ぎ進めるべき対象というところまでは至っておりません。

以上でございます。

【辻野議長】 ありがとうございます。

ほかによろしいでしょうか。

それでは、一旦先に進めさせていきたいと思しますので、また後で、また気になることが出てきましたらよろしく願いいたします。

それでは、報告事項の2点目について、区役所のほうからご説明お願いいたします。

【中野政策推進課長】 失礼いたします。政策推進課長の中野でございます。報告事項2点目、「令和5年度第1回将来ビジョン検討会の振り返りについて」ご報告をいたします。

資料4をご覧ください。

5月16日の第1回将来ビジョン検討会の際には、委員の皆さん方、大変お忙しい中をご

出席いただき、活発なご議論の上ご意見をいただきありがとうございました。資料に沿って説明する前に、当日のリマインドといたしますか、第1回のビジョン検討会では、まず最初に次期将来ビジョン策定に係る方針として、次期ビジョンの4つの柱建てと、4つの柱にぶら下がる施策について、その概要を説明させていただきました。その後、この将来ビジョン策定に当たって、広く区民にお聞きするための区民意識調査の設問項目について説明をさせていただきました。その後、委員の皆様方にはA班、B班、C班の3つのグループで、1つ目、区の将来フレーズについて、フレーズは5点ほど例示として挙げさせていただきました。この意見聴取、2つ目に、将来ビジョンの4つの柱建てについてのご承認、3つ目、区民意識調査の設問内容についての意見聴取をしていただきました。

それから、柱建てごとの施策の方向性、今後どのような事業が必要なのかなどについて、各グループでテーマごとに、A班は「地域・つながり」について、B班は「安心・安全・心地よく暮らせる」について、C班は「子ども・若者の支援、子どもの成長」をテーマに意見交換をしていただきました。その際に委員の皆様方から頂戴しましたご意見をまとめましたものが、この配付資料④でございます。上から順に報告をさせていただきます。

まず1つ目、将来ビジョンの将来像フレーズについてですが、前回検討会の際に、例示として「つながりを大切にしたい魅力あるまち」「住みよいまち住吉」「つながりを大切にしたい住みよいまち住吉」、また、「暮らし続けたいまち住吉」「住み続けたいまち住吉」「魅力あふれる住みよいまち、ええとこ住吉」、この5点ほどこちらから挙げさせていただいて、ほかにも何かよいフレーズがあればぜひ出していただきたいということで、ご意見を頂戴しました。皆様方からは、この(1)、資料の一番上の(1)「短く、簡潔なものがよい」とか、「インパクトのあるものがあるといいだろう」と。「大きなものを示して、中身は出さない」とか、あとは、フレーズとして、「住んでよし」とか、「住みよいまち住吉」「やっぱり住吉」とか、「つながり・魅力・住みよいまち住吉」、あと、「ええとこ住吉」「好きやねん住吉」「すみよしが好き」とか、あとは、「「つながり」が「しがらみ」と受け取られないように」というふうなご意見もございました。あと、「「住み続けたい」は住民側が感じることで、「住み続けられる」のほうがよいのでは」とか、「SDGsの持続可能な意味合いも入ってくるだろう」という、こういった貴重なご意見もいただきました。あとは、「「つながり」を「きずな」に言い換えたらいかがですか」というご意見もいただきました。

それから、次に将来ビジョンの柱建てについてのご意見でございます。

1本目の柱、「地域・つながり」の中の「官民連携は不要ではないか」とか、「官民では

なく公民にしたらどうか」などのご意見や、「何々のまち」というふうにしないほうがよいのではないかとか、「情景が浮かぶような表現にできないか。」、あと、「つながりは大事」などの意見をいただきました。

2つ目の柱、「安心・安全」のところでは、「安心・安全というのは当たり前のことであって、あえて使わなくてもいいのではないか」というふうなご意見や、逆に「共生社会」や「違いを認め合う、多様性」などの言葉があればさらにいいのではないかとかのご意見もいただきました。また、「自律的」とか「地域資源」とか「官民連携」といった表現については役所側からの表現で、住民側から見たときにはどうなんだろうかとかのご意見も頂戴いたしました。全体として、4本の柱建て自体への否定的な意見はなかったかというふうに考えております。

次に、裏面をご覧ください。

3つ目は、区民意識調査の設問内容について皆様方からいただいたご意見でございます。設問数は回答者の属性を除いて21問の設問内容で、大きく「住吉区に住む、住み続ける、住みたい要件や条件について」、「住吉区政に求める施策について」、「地域活動の活性化に必要なこと」などについて、また、「行政のデジタル化への要望」、それから、「区内の交通網の充実に必要なこと、具体にはシェアサイクルとオンデマンドバスについて」、この大きく5つの内容をお聞きする設問項目でございまして、皆様方からいただいたご意見も、1行目の「町会に入らない人と町会をやめる人とはその理由が違う」や、3行目の「マンション住民に町会に加入しているかを聞いても駄目」、5行目や最終行の「町会に入りたくない理由も聞きたい」など、町会や地域活動に関する設問に対してのご意見が多数ございました。

そのほか、「よい意見ばかり聞いても駄目、批判的な意見を聞きたい」とか、「住吉区に住んでいて不安や困り事を聞く項目があればよい」などの貴重なご意見もいただいたところでございます。

次に、4つ目の柱建てごとの施策の方向性、今後どのような事業が必要なのかについて、ここはAからCの各班ごとにテーマ別に意見交換をしていただいた内容をまとめたものでございます。

上から順に、「地域資源の活用に関し、若者を対象に情報発信を本気でやるなら発想を変えないといけない」「大阪公立大学が森之宮に移転し学生が減る。地域ががらっと変わってしまう不安がある」「若いメンバーを入れたくても集まらない。地域として活動したい人を

温かく迎え入れるような体制をつくりたい」、これは地域活動の話です。それから、「共生社会、多様性というテーマが欲しい」と、「社会的弱者とは何かから議論した経過がある」というふうなご意見もいただきました。あと、「空き家を居住希望者に紹介する仕組みがあれば住吉区から離れなくてよい」と、「それらをマッチングする仕組みがあれば街の活性化になる」と、「シェアハウスもいいだろう」と、こういった意見もありましたね。それから、「大学と協働して取組ができればよい」「住吉区はもっとアピール、宣伝すべき。治安が悪いと言われたがそんなことはない」「住吉区のよさは歴史があること。高齢者はパワーがあるのでその力を借りる」「大阪公立大学は住吉区の強み。学生をもっと生かせないか。学生に住吉区を知ってもらいたいのでそのための取組があればよい」と、「例えば学生をゲストに呼ぶとか」であったり、あと、「中高生を単発ではなく受け入れてくれるところがあればよい」というようなご意見ですね。あと、「子ども、若者がいつでも通える場所があればよい」と。これは、「映画会を実施しており、1つの居場所となっている」と。あと、最後、「ハードルは高いが、孤立している子ども・若者を見聞きするので何かできないか検討してもらいたい」、こういった施策に関するご意見も多数いただいたところです。

お忙しい中を、この5月16日のビジョン検討会議にご出席くださり、こういった活発なご議論、意見も交換していただき、委員の皆様方にはありがとうございました。これまでもいただいたご意見も参考にしながら、次期将来ビジョン素案の形にまとめたものを別添の封筒に入れてお渡しさせていただいております。これにつきましては、次回の第2回将来ビジョン検討会で使用いたしますので、またお目通しいただきますようよろしくお願いいたします。

私からの説明は以上とさせていただきます。

【辻野議長】 ご説明ありがとうございました。

前回の将来ビジョン検討会の議論をいろいろと思い出しながら、委員の皆さんも聞いておられたかなというふうに思います。

それではご意見、ご質問等、感想等で結構ですので、遠慮なく出していただけたらと思います。いかがでしょうか。補足、情報提供的なものでも非常によろしいかなと思います。いろんな現場で活躍されておられる方、大勢いらっしゃるかと思いますので、このキャッチフレーズだけ見ると、何の議論だったかなというのはちょっと分かりにくいところがあるかもしれませんが、実際には、例えば映画会をするにしてもその背景とか、その地域の事情とか、子どもの状況とかといういろんなことが考えられて、その一つ一つの議論に、

多分そういう背景がかなりあったかなと思いますので、今ここでちょっと補足をしていただくということも非常に有意義かなと思いますが、いかがでしょう。

【繁田委員】　　ちょっと質問になるかどうか分からないんですけど、先ほどの公立大学が森之宮に移動するということで、ここで実際に今どんな変化があるのか、何か情報があるのか。現実には現場サイドといたらいいのかな、そういう移動についての何か最新の情報、こういうような取組をしているけども、現実には建物を替わって、学生さんの移動があるに対して、何かちょっと説明的に、何か知りたいことがあります。やっぱり地域にかなり大きな影響があると思いますので、何か具体的な、こういうものがこういうふうに変ったとかいうようなものがあれば教えていただきたいんですが、すみません。

【辻野議長】　　これ、多分、公立大学に勤めている私が説明したほうがよろしいんでしょうか。区長。

【平澤区長】　　今、私どもちょっと細かい資料が手元にないので、ちょっと数字はうろ覚えなんですけれども、公立大学になったということで、キャンパスが統合されますので、杉本町から工学部が中百舌鳥のキャンパスに統合されまして、中百舌鳥から理学部が杉本町に来るとというのが一番大きい流れになるのかなと思っています。ほかにも幾つか学部とか、あと、教養の学生がたしか森之宮のほうに行くといった話もあるかと思っていますので、大分先の話にはなるんですけれども、令和でいうと8年、9年、10年ぐらいの話で完結するような流れになるかと思っていますけれども、学生の数としては、確か7,000から3,000でしたかね、ぐらいに人数は減るといふふうには聞いております。杉本の問題でいいますと、工学部、これが全部中百舌鳥に行ってしまうということで、そこのキャンパスの部分が完全に空いてしまうので、そこの跡地をどのように活用するかというのが、杉本のキャンパスに関しては一番大きい問題なのかなと区役所としては考えておりまして、この部分はもともと売却というふうなお話も、どうもあったとは聞いておるんですが、昨年度の市会の議論の中で、やはり大学ということなので、大学に親和性の高い方向性で活用できないのかといった質疑がございまして、市長のほうからも、やはりそういった方向で検討したいというふうな質疑があったので、今のところ、単純に売ってしまうということではなくて、何か大学に親和性のある形で使っていきたいなというふうなことでは市としての方針は考えているんですが、まだ具体的にそれがどのような活用になるかというのを、実際その場所が空くのが令和10年ぐらいという、大分先の話になりますので、まだこれからの検討になるということで、今時点で私ども担当の局からは聞いております。

以上です。先生、補足ございましたらよろしく申し上げます。

【辻野議長】 ありがとうございます。大分詳しい状況が伝わっているということで。補足としては、一番、第1陣に移転するのが文学部で、私が所属しているところなんですけど、2025年度の後期から、秋に森之宮に移転するというので、そうすると文学部棟というところが、杉本キャンパス自体がなくなるということは、当面は予定されていないわけです。今ご説明あったとおり。だから、大学が全くなくなるということではないわけです。ただ、その文学部が第1陣として行って、そこから順次移動していくという可能性があるんで、特に文学部は、例えばここで議論されているのは歴史とか地理学とか伝統文化とかという、いろんなことを扱っている分野の人たちがごそとそっちに行ってしまうというのがあって、そういう意味ではこの杉本キャンパスにある間に、せっかくここまでこの大学との連携とか学生の声とか、こういうふうに言ってくださっているのは、大学の当事者としては非常にうれしいことですので、これは大学の地域連携センターとかいろんな部署がありますので、ちょっとぜひ、私のほうもこういう報告をさせていただきたいなと思いますし、委員の皆様、区役所の皆さんも、ちょっとこんなことやらへんかというのがありましたら、ぜひとも私も、何かしら微力を尽くしたいと思いますので、よろしく申し上げます。地域が離れても、皆さんこの杉本のキャンパスには愛着がある人たちばかりなので、遠慮なくこういうところに来ると思うんですが、今この間でできることというのはたくさんあると思いますので、ぜひまたよろしくお願いいいたします。

【平澤区長】 区長の平澤です。

1つ補足ですけども、杉本のほうでもボランティアセンターということで活動されているのを聞いておまして、もともと中百舌鳥のほうでやっていらっしゃったものが公立大学になって、各キャンパスにもそういったセンターを置いて、いわゆる地域連携をしていくということで、今、既に動き出しているとお聞いておりますので、こちらのほうとしましても、そのボランティアセンターとの連携というものは深めていきたいと思って、ちょっと随時お話も進めさせていただいているところですので、ご意見いただいていた大学との連携につきましても進めていきたいと考えておるところです。

以上です。

【渡邊副議長】 渡邊です。

私、大学のことは全然分かりませんが、大学の学生さんが地方からというか、大阪市以外ですか、来られている人が、こちらに住んでおられる人は、住民票は移す、それは関

係ないわけですね。住民票がこちらへあるかどうかは。なぜかといいますと、1回出張の投票所をつくったんですけど、我々が考えたほど投票率が上がらなんだ。そこにはやはり、住民票の問題があるんじゃないかなというようなことが、議論したことがありますので、ちょっとその辺。すみません。

【辻野議長】 学生も、他の地域から来たときに住民票を移す学生と、そうでない学生がいると思うんですけど、もし把握されていることあれば、情報提供お願いできますでしょうか。分からないですよ。そこまでね。学生が否かとかね。分からないですよ。やっぱり選挙のときに、ちょっとそういうことがあるんじゃないかということ。

【渡邊副議長】 いや、実際に選挙投票所をつくったんですけど。何年前、市大の中へ投票所をつくったんですけど、我々が議論して、少しでも投票率を上げようとしたほど上がらなかった、投票率が上がらなかった。そこには市内の学生さんがこちらで投票できないんじゃないかなというようなことも議論したことがありますして、そういうことで1つ勉強になったわけですけど、それは別に、こちらへ住民票を移す、移さんはまた別の話だと思うんですけど。

【辻野議長】 ありがとうございます。また引き続き、ちょっと大学のほうもいろいろと、何かモニターできることあれば、その住民票だけにかかわらず、学生の地域性とか地域感覚とか、地域に関する知識とか、とても重要だと思っていまして、先ほどの大学連携の中でも、実際ボランティアサークルなんか結構入っていらっしやって、委員の方々から逆に教えていただくことがあるんですけども、私のほうが知らないことが結構あるんですが、そういうフォーマルな連携とか、インフォーマルな連携とかで結構なされているところがあるので、そういうのがちゃんと見えるようにしたりとか、より体系的に活動しやすいような形にできたらいいのかなというふうに思いまして、そういう意味では住民票の件も含めて、学生さんも、区役所、住吉区役所のイメージは、ぱっと何か持っているという学生さんのほうが少ないのですけれども、ゲスト授業とか区役所でさせていただいたときとかに、住民票を移すときに来た限りで、それ以来一切来ていなかったんですけど、カウンター越しに見る職員の方々と実際に議論をさせていただいた、特別授業のときの職員の方々の顔が知れて、もう全然イメージが変わったとか、職員の方がそういう思いで行政のことをやっていたのかということを知れたとか、公務員になりたいくなったとか、いろんな人いるんですよ。なので、ちょっとそういう1つの議論の皮切りとして注視していきたいなと思いますので、またよろしくお願ひいたします。

ほかにご質問、情報提供等、何でも結構ですが、いかがでしょうか。よろしいですか。

そしたら一旦、次の協議事項に入っていきたいと思います。「令和4年度住吉区運営方針の振り返りについて」、区役所よりご説明をお願いいたします。

【中野政策推進課長】 失礼いたします。政策推進課長の中野でございます。私のほうより、協議事項「令和4年度住吉区運営方針の振り返りについて」ご説明をいたします。

配付資料⑤-1から⑤-4までが令和4年度の住吉区運営方針となります。会議時間の関係上、個別の振り返り内容等の詳細な説明は割愛をさせていただきます。

配付資料の⑤-3における具体的取組において、プロセス指標の達成状況が未達成であった箇所の課題と改善策について、配付資料⑥にまとめております。抽出してそこにまとめております。こちらの⑥の資料を基に、関係課の課長からご説明をさせていただきます。

【小林地域課長】 地域課長の小林です。日頃からお世話になり、ありがとうございます。私のほうから配付資料⑥、1つ目の経営課題1、安全で安心して暮らせるまちづくりの1-1、防災の取組1-1-1、災害時要援護者支援についてご説明させていただきます。

プロセス指標といたしまして、要援護者支援台帳登録者に対する1回訪問の実施につきまして、目標115町会以上としていたものが114町会ということで、未達成という形になっております。これについての課題につきましては、説明会等実施させていただいておりました。民生委員の方々にもご協力いただいたんですけども、コロナの関係とかもございまして、計画どおり地域の方々に協力を得られなかったということで、未達成という形になっております。改善策といたしまして、個別支援プランの作成が努力義務化となり、5か年計画に基づいて、今後1回訪問のきっかけとなるように、しっかりと説明をさせていただきたいというふうに考えておる次第でございます。

次に1-2、防犯の取組です。1-2-1、地域安全防犯対策事業について、犯罪発生件数をプロセス指標としておりました。前年比1%削減ということでしたが、前年比13%増加という結果になってしまいました。これはアフターコロナの関係で、犯罪発生件数が1,300件ということで、前年比150件も増えてしまいました。特に自転車盗が昨今増えているというような状況になっておるところでございます。また、特殊詐欺の認知件数が42件ということで、住吉区はマイナス14件と、結構効果が出ておるんですけども、依然多発しておりますので、注意が必要な状態になっておるところでございます。改善策といたしましては、移動式の防犯カメラ2台を整備しまして犯罪抑止効果を高めるとともに、キャ

ンペーンとか教室、「広報すみよし」とかSNSによる情報発信を通じた防犯対策を継続的に実施してまいります。区民の防犯意識が向上するよう努めてまいりたいと思っております。ところでございます。また、高齢者の方々に直接働きかける取組を、特殊詐欺などを中心に、被害防止に努めるよう取り組んでまいりたいと思っております。

私からは以上です。

【小西保健福祉課長】 保健福祉課長の小西です。いつもお世話になっております。私からは経営課題の2、高齢者、障がい者等だれもが心地よく暮らせるまちづくりの2-1、地域福祉の推進の2-1-2、支援が必要な人々へのつながりづくりについてご説明いたします。

プロセス指標としましては、区実務者代表者会議の参加者アンケートを実施し、「住吉区全体の福祉課題について、認識が深まった」と感じた割合75%以上という目標を立てておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で参集型の会議の開催が難しく、目標が達成できませんでした。開催自体が行えなかったという状況でございます。改善策としましては、つながる場や区実務者代表者会議など、これまで参集形式により実施すべき取組について、コロナ禍においても取組を推進できるよう、直接対面によらない手法を検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

【山田教育文化課長】 教育文化課長、山田でございます。経営課題3、安心して子育てができ地域の実情にあった教育が展開されるまちづくり、戦略3-2、学校教育等への支援、具体的取組3-2-1、こどもたちの学びへの支援のところににつきましてご説明をさせていただきます。

私どもの行います取組は、教育委員会が行う施策を補うものとして、自主学習習慣づくり事業を実施してまいっております。区内小学校への司書の派遣、それから、各小学校4年生から6年生までの1学年に対し漢検の受検費用を負担、住吉区在住の中学生に対する学校内で授業を受けられる塾、すみよし学習クラブ、これを3か所運営しております。この中で特徴的なものとして、学校内の塾であるすみよし学習クラブのことを取り上げてプロセス指標とさせていただいております。「受講前より学校の授業が分かるようになった」と回答した参加者の割合を指標とし、目標を90%以上といたしましたところ、この達成が73.3%にとどまってしまうました。事業効果を図るための指標を、学習クラブの参加者個人のアンケートといたしましたところ、きめ細かな指導でそれぞれの学習意欲

を喚起できるというふうに考えておりましたが、やはり個人の状況は様々で、異なる状況がございまして、アンケートでは想定外の結果となってしまいました。参加者生徒個人個人の状況に応じたきめ細やかな指導が課題というふうに感じております。改善策といたしましては、教師の配置人数を生徒数に応じたものとすることや、個人の状況に応じたきめ細やかな指導を行うほか、自主学習に適した動画の視聴による学習も取り入れることなどの指導内容の改善を図り、参加生徒の学習意欲及び理解度を高めていきたいと考えております。

以上でございます。

【稲岡生活支援課長】 生活支援課長の稲岡でございます。私のほうからは、具体的取組3-2-3、児童・生徒等の支援についてご説明させていただきます。

プロセス指標につきましては、すみよし学びあいサポート事業参加者の出席率、こちら目標を80%以上としておりましたが、達成状況といたしましては78.2%にとどまっております。課題といたしましては、新型コロナウイルス感染症の影響で、保護者の方から感染への危惧等のご意見もございまして、出席率の目標が達成できませんでした。改善策といたしましては、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を講じまして、安心感のある学びの場を提供することにより保護者の不安を払拭し、出席勧奨を行っていくことにしております。また、コロナ禍の中、オンラインの受講につきましても活用していくとしております。

私のほうからは以上でございます。

【山田教育文化課長】 教育文化課長、山田でございます。続きまして、3-3、教育コミュニティづくりの推進、3-3-1、生涯学習推進員、はぐくみネットコーディネーターの支援の取組についてご説明をさせていただきます。

生涯学習推進員、はぐくみネットコーディネーターにつきましては、連絡会という形で団体の活動がございまして、そちらの団体の支援を区役所が行っているところでございます。生涯学習推進員は、その活動成果の発表の機会がございまして、そういったものを支援したり、生涯学習推進員とはぐくみネットコーディネーターさんが合同で研修をして、教育コミュニティに資する活動ができるように、連携を図ることの取組もしております。また、新たな担い手の確保を目途とした広報紙での情報発信にも努めました。こういった取組を実施させていただきまして、その事業の成果をプロセス指標として書かせていただいておりますが、「はぐくみネットコーディネーターの活動により、子どもの教育のための地域の

ネットワークが前年度に比べて深まったと思う」と回答したはぐくみネットコーディネーターの割合が、目標では60%以上としておりましたが、その達成状況は50%にとどまっております。これらは、コロナ禍で活動できなかったはぐくみネットコーディネーターが非常に多く、子どもの教育のために地域のネットワークの貢献ができなかった、そういう意味では深まりを感じるができなかったというふうにご回答されておられまして、その達成ができませんでした。今後、改善策といたしましては、コロナ禍で停滞してしまった各種の活動をさらに活性化するように、我々といたしましては支援してまいりたいと考えております。

続きまして、3-4、人権尊重のまちづくり、3-4-1、人権啓発の取組につきましてご説明をさせていただきます。

住吉区は人権尊重のまちづくりを行うことといたしておりまして、区の実施するイベントなどでの啓発、広報紙、SNSを活用した啓発活動を行っております。また、犯罪被害者、当事者の方の保護者に来ていただきまして、命の大切さを知っていただく講演も実施いたしました。また、人権啓発のイベントを団体と共催して行いました。このような様々な手法で啓発を行っているところではございますが、プロセス指標といたしました人権に関する区取組や啓発が人権を考えるきっかけとなった区民の割合、こういった区民意識調査を取りましたところ、目標が50%以上の方にその回答をいただけたと思っておりましたが、達成状況としては36.1%にとどまりました。区民に対する人権啓発の情報発信をさらに強化する必要があるというふうに、課題として捉えております。改善策といたしましては、引き続き広報紙、ホームページ・SNSを連動させた情報発信に努めるとともに、区役所・イベントでの啓発を引き続き行い、努めてまいります。

以上でございます。

裏面にまいります。経営課題4、歴史・文化を生かした魅力あるまちづくり、戦略4-1、歴史・文化を通じた地域の活性化、4-1-1、歴史的資産の活用についての取組をご説明させていただきます。

私どもでは、歴史・文化の発信、また住吉区、この地域の魅力発信イベントの開催の支援を行っております。また、歴史案内人の会の方のご協力によりまして、小学校へ出前授業も行っているところでございます。歴史・文化を知っていただきたく、様々な手法で情報発信をしているところでございますが、なかなか若い世代の関心を寄せていただくことは難しい問題というふうに捉えております。この事業の成果を、プロセス指標では住吉区

の歴史・文化に関連する情報に触れたことのある区民の割合といたしまして、その目標を90%以上と設定いたしましたが、非常に残念なことでございますが、35.1%の達成状況にとどまっております。課題といたしましては、区民に向けた情報発信の充実というものが課題であり、とりわけ若年層（児童を含む）が歴史・文化に触れる機会の創出が必要であるというふうに考えております。改善策でございますが、住吉区の歴史・文化に関連する情報をSNSなどで発信していくとともに、区内の学校園への出前授業により、住吉区の歴史・文化にさらに関心を持って触れていただきたいと、そういった機会を創出してまいりたいと考えております。

以上でございます。

【小林地域課長】 地域課長の小林です。私のほうからは経営課題5、自律的に地域活動が展開される活力あるまちづくりでございます。5-1、つながりづくりの推進、5-1-1、住民同士のつながりの場やきっかけづくりでございます。

こちらのプロセス指標につきましては、災害に備え、ご近所同士のつながりが大切だと感じる区民の割合、目標を前年度実績80.4%以上としておりましたが、達成状況は77.5%でございました。課題といたしましては、マンション住民の防災訓練への参加者が少ないということが課題かと考えております。改善策といたしまして、町会未加入のマンションを優先に防災訓練を実施しまして、訓練を通じて地域活動への参画及び町会加入の促進を促してまいりたいと考えております。

次に、プロセス指標の2つ目なんですけれども、つながりづくり促進のための地域活動に参加したことがある区民の割合30%以上を目標としておりましたけれども、11.8%という形になってしまっておるところでございます。こちらにつきましては、下段のほうに書いております課題としては、地域が開催するイベント等の情報発信が不足しているということが課題かと考えております。改善策につきましては、地域活動への区民の参画、特に若い世代や子育て世代を促進させていただきまして、新たな担い手を発掘するため、地活協による広報紙発行やSNSを活用した情報発信を重点的に支援してまいりたいと考えております。

次に、5-2、自律的な地域運営の促進でございます。5-2-1、地域の実態に応じたきめ細やかな支援。こちらのプロセス指標の1点目が、地域活動協議会を知っている区民の割合が55%以上を目標としておりましたけれども、45.6%にとどまっております。課題といたしましては、地活協の認知度の向上がこれからも必要であるというふうに考え

ております。改善策といたしましては、地活協設立10年が経過し、これを契機といたしまして、地活協の意義や求められる機能につきまして、新たに役員になられた方や区民の方にも理解が深まるように、改めて働きかけや情報発信を行ってまいりたいと考えております。

2つ目のプロセス指標といたしまして、地域活動協議会の構成団体が、地域活動協議会に対し地域の実情やニーズに即した支援が実施されていると思う割合の目標が93%以上であったことに対しまして、達成状況90.3%となっております。こちらの課題につきまして、役員の方が高齢化されているということもございまして、担い手の確保や人材育成が必要であるかと考えております。また、SNS等を活用した情報発信ができる知識や環境が整っていないことも課題かと考えております。また、会計処理とか広報についての、地域の自立度に差が生じているのではないかというふうに感じておるところでございます。改善策といたしましては、企業やNPOとの連携・協働を目的としたまちづくり交流ライブというイベントをさせていただいているんですけども、そういったものを継続実施しまして、好事例を共有させていただき、地活協の担い手の確保・人材育成につながるよう支援してまいります。また、地域行事の中での企業や学生と連携したスマホ教室などの実施、SNSの活用による情報連絡体制の構築ができるように支援してまいります。また、会計や広報を重点的に一律的な支援を行うのではなく、地域の実情に応じたきめ細やかな支援を引き続き実施してまいります。

以上です。

【中野政策推進課長】 政策推進課の中野でございます。経営課題6、区政改革の推進、6-2、情報発信の強化、6-2-1、広報紙、ホームページ、SNSの充実。プロセス指標は、住吉区役所のSNSを見たことがあると答える区民の割合。目標を40%としておりまして、達成状況については34.5%。課題といたしまして、区SNSを見たことがあると回答した割合が前年度よりは向上しているものの、まだ目標値を下回っている。継続してSNSの周知の取組を行っていく必要があるとしております。改善策は、区SNSを見たいと思っていただけるよう、投稿内容をより充実させ、また、広報紙等で周知を図っていく。災害時においてはツイッターで情報発信が行われていることを周知し、区アカウントをフォローする必要性を感じていただく、こういったことを周知していきたいというふうに考えております。

区役所からの説明は以上となります。ありがとうございます。

【辻野議長】 説明ありがとうございました。

それでは、重要な今日のメインの議題ですので、じっくり議論を、時間が許す限りしていきたいと思うんですけども、質問、感想、ご意見等、何でも結構ですが、いかがでしょうか。

お願いします。

【柘野委員】 数字の算出の方法が想像できるものと、ちょっと想像しにくいところがあって、何%、何%と、母数があってということだと思うんですけど、例えば4-1-1、90%という目標、かなり大きな目標で、達成状況が35.1%なんですけれども、これは、このために特にアンケートを取られたとか、あるいはどういう算出をされたかということがちょっと分かると、少し議論ができやすいと思うので、お願いします。

【山田教育文化課長】 回答させていただきます。教育文化課長、山田でございます。

歴史・文化を通じた地域の活性化のところは、区民意識調査をしております、その中の回答の状況でございます。年代別に見ますと、若い世代に非常に歴史・文化資産に関する関心が低いということが分かっております。また、反対に中高年層では関心が高いというような結果も出ております。

以上でございます。

【辻野議長】 いかがでしょうか。追加でご質問いただいても結構ですし、関連するご質問でも結構ですが、いかがでしょうか。

お願いします。

【山本委員】 山本です。いろんなところで改善策として、表現のところでSNSの活用等という意見が非常に出ていて、そうだよなと思いながらお聞きしていたんですけども、ちょっと事例で、例えばでお話ししたいなと思ったのが、私がほかの市とかでも結構イベント、例えばマーケットイベント等をやらせていただいているんですけども、そのときに一番、若年層とかも含めて、「一番何を見て来てくれましたか」みたいになったときに、意外に「チラシを見てきました」とか、要は普通に近くの、要は家に一軒一軒パンフレットというか、チラシをまいていったら、結果それを見られている方が多いみたいなことが結構あって驚いたり、SNSとかよりも実はそっちのほうが刺さったみたいなこともあったりして、これで何が言いたいかなというのが、要はSNSとかそういうのってあくまで手法だと思っていて、どっちかというところと表現みたいのところ、そのイベントのときも、ほかの社会実験等、私、行政だったので社会実験等やったときも、コンサルさんと話をして

いたのが、チラシをとにかくおしゃれに作りましょうと。漠としているんですけど。要は若い人って、チラシを見たときに、自分の興味があることがないのかというのは一瞬で判断されるというときに、いわゆる行政っぽいこと、どうしても行政って情報を全部伝えなきゃいけないので、説明っぽくはなるんですけど、何か、例えば、「あれ、これ何かおしゃれやな」みたいなので手に持ってもらえるような表現をするというほうが実は大事だったりする、そういった部分も大事なんじゃないかなと思ったので、これはなかなか行政として非常に難しいところではあるというのは理解しつつ、そういったところも工夫いただけたらいいのかなというのを、ちょっと聞いていて思いました。

以上です。

【辻野議長】 今のお話を伺っていて、委員の皆さん、それぞれいろんな現場をお持ちだと思いますので、全体的にやっぱり区の行政としては、統計的にとか、地域の偏りとか年代とかというところを量的に見るというんでしょうかね。今の山本委員のご発言のように、実際に一つ一つの現場で、実際の肌感覚として分かることとか経験されていることとかがたくさんあって、多分ずれていることも結構あるんじゃないかなと思うんですけども、多分そういう、もし情報提供いただけるようだったら、自分が一通りいろんな、防災から地域福祉から学校教育から、網羅的に説明いただいているんですけども、ちょっと自分の分野ではこういうふうな実感があるけれどもというのがありましたら、ぜひご提供いただきたいなと思います。そんな感じで、ちょっと一旦ワンクッション置いてもいいですか。多分区の職員さんもそういう情報を知りたいんじゃないかなと思いますが、どうでしょうかね、実感として。

お願いします。

【島谷委員】 島谷です。清水丘で地域の育み活動をさせていただいているんですが、育みとして清水丘で公式LINEアカウントをつくりまして、情報発信をそれで行っています。現在登録者が、お友達登録が約200名集まって、PTAというか、小学校の保護者の方とか、子ども会の方とか、あとは地域活動協議会の会長さんとか、いろんな方にもご登録いただいているんですけども、どちらかというと一方的にこちらから発信するのは、地域のイベントだけじゃなくて、学校は今こういうことで休校になりましたよとか、夏休み入る前で、地域で見守りお願いしますねということなんですけども、長くなってすみません、前置きが。

春にイチゴ狩りのイベントを行いまして、子どもたち、保護者と子どもとの参加でとい

うことと呼びかけたんです。ありがたいことにすぐ満席になりまして、無事ツアー催行できたんですけども、そこでアンケートを取りまして、「何でこのツアーを知りましたか」とお聞きしたら、その育み公式LINEではなくて、やっぱり先ほどおっしゃった掲示板のポスターだったんです。皆さん、「ポスターを見て申し込みました」という方がすごく多くて、だから「SNS、SNS」と言っているけども、結局何か、先ほどのお話みたいに、ちょっとアナログ的なもののほうがもしかしたら目を引くのかなというふうに感じました。

【辻野議長】 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。何でも結構かなと思いますので、このSNS関連、広報関連以外でもお願いします。

お願いします。

【菅原委員】 長居地域の菅原と申します。私、長居地域の民生委員長もやっています、長居地域では子育てサロンというのをやっているんです。それで、そこで一応公式のLINEアカウント、今言ったようなものを開設して、情報発信というんですか、月に2回程度なんですけど、子育てサロンを開催しますというようなこと、内容の発信とか、そういうのをやっております。やっぱりそういうのをやっていると、やっぱり個々に返信が来て、こういうので参加したいとか、例えば何か月の子どもから参加できますかとか、やっぱりそういうような反応が返ってきます。それで、中にはやっぱり批判的なものもあるんですけど、コロナ全盛期の頃は、なぜマスクをしないといけないとか、そういうような意見もいただいたんですけど、やっぱり感染防止のためとか、やっぱりこちらの思いを発信していくのも大事ななと思っております。やっぱりそういうようなこともあるんですけども、今度は、今LINEアカウントを使うと、月に200通のメールという数に制限されております。以前は1,000通だったんですけども。やっぱりその辺で、今度はまた費用の問題が出てきたりとか、会員が増えてくると費用の問題が出てくるというので、やっぱりそういうので、やっぱり会員を増やすのもいいんですけども、費用の問題が出てくるということがあるので、長居ではそういうような活用をしております。

以上です。

【辻野議長】 ありがとうございました。

ほか、いかがでしょう。お願いします。

【福留委員】 福留です。ちょっとご質問なんですけれども、地域福祉推進のところの部分なんですけれども、支援が必要な人々へのつながりづくりという基本的取組のところ

があると思うんですけども、それに対して、実務者代表の参加者にアンケートをすることが、開催しなかったからできなかったということだったと思うんですけども、実際にここの部分はすごく大事だなと思っていて、つながりづくりだけのことではなくて、実務者であればこれまでずっとZ o o m等々でもやってきた経緯があったので、できたんじゃないのかなという、ちょっと何か残念やなというふうに思ったんです。どっちかという、もう今、直接対面ができやすい状況になっている中なので、そこによる手法等々だけではなくて、実際どのような形で対面していくかということも大事なのかなというふうに思いました。感想です。

【辻野議長】 ありがとうございました。

じゃ、お願いします。

【小西保健福祉課長】 保健福祉課長の小西です。いつもお世話になっております。

福留委員おっしゃるように、区実務者代表者会議といいますのは、専門職の方々が地域の中でいろんな取組をしていただいて、そこでいろんな課題を掘り起こしてこられていただいているわけですし、それをまた多様な専門職の方々と共有して、さらによりよい方向に解決策を見いだしていくという、専門職と区をつなぐ非常に大切な役割を持っている会議やというふうに思っていますので、コロナも明けましたので、必ず今年度は開催をさせていただきたいというふうに思っておりますので、そのときはどうぞよろしく願いいたします。

【辻野議長】 ほか、委員の皆様いかがでしょう。

お願いします。

【渡邊副議長】 渡邊です。地域活動協議会のことちょっと出ていますので、私、この協議会ができたときから10年、ずっと務めさせていただいているんですけど、いまだにその知っている割合がなかなか上がってこないというのが毎回出るんですけど、私は確かに地域活動協議会がいろんな事業を、「この事業も地域活動協議会がやっているんだな」というようなことは、住民の皆さんはそう考えていらっしやらない。ほとんどの、しかし活動は、一応地活の中の団体、1つの団体、あるいは地活がそれをやっているということであって、私はそれ、むしろ12地域あるんですけど、その中でほとんどの地域はいろいろ工夫して、非常によく活動をしてきていると思います。それが、皆さんが、それが皆地活というように思はされてないと思いますけど、それはそれで私は、それより活動をもっともっと充実してくれたらというように思っておりますので、これを見ま

すと本当に、知っている区民の割合というパーセントが上がってこないんですけど、私はそういう考えを持っております。これ以上に12地域、よくやっていただいていると、このように思っております。

それからもう1つ、町会へ入る方が少なくなった中で、先ほど掲示板を見られてというような話がありましたけど、私は今、うちの地域は広報紙の配布、全戸配布をやっておりまして、今度初めてこの夏の盆踊り大会の案内を、今までは回覧と、そうでない人には掲示板へというだけで行き届いたと思っておったんですけど、今度はそれを一切やめて、各戸配布でやりますというのを、明日の1日の広報紙の、広報紙の中へ入れたらいけないので、一緒に配るといようなこととして、そういうようなところから、多少町会の考え方をどうしていったらいいのかなというように、ただ入らない、入れない、入らないということで長年来ておりますので、その辺、もっと考える必要があるのかなというように思っております。

以上です。

【辻野議長】 ありがとうございます。

【小林地域課長】 地域課長の小林です。本当にありがとうございます。地域の方々が本当にいろんな工夫をして、いろんな広報活動にも努めていただいているところです。

その中で、区民の意識調査で、区民が地元のイベントに参加するという項目の中で、「なぜ参加しないんですか」というところで答えをいただいているのが、「参加したいと思わないから」というのが43%以上いらっしゃいまして、「参加したいがどんな活動をしているのか知らない」という人が19%、20%ぐらいいらっしゃいます。「参加したいが時間の都合などにより参加できない」という方が17%ということもあって、この20%の方が「どんな活動をしているか分からない、知らない」というようなことに基づいて、チラシや広報版だけでは不十分ではないかということで、子育て世代とか若い世代にも知っていただくために、SNSなどを活用したほうがいいのじゃないかということで取組をさせていただいています。

今、島谷委員であつたり菅原委員であつたり、いろいろなLINEアカウントもしていただいている、この前6月2日に水害があったときにも、そのLINEアカウントで、警戒レベル3になりそうだよというのを発信していただいたりとか、本当に工夫をいただいているので、そういった好事例を我々もしっかりと共有してまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。ありがとうございます。

【辻野議長】 ありがとうございます。

今何名かの方々が、ここの委員のほうから質問とかご意見いただいたものをちょっと取りつないで聞いていますと、実感として、日々の活動の中で感じている課題とか成果とかというのはやっぱり両方あって、これがご説明いただいた、区役所からご説明いただいた資料など、やっぱり非常に謙虚な行政の振り返りをされているんだと思うんですけども、達成できなかったところを力点を置いて説明されているんですけども、達成できているところがたくさんあったりとか、あるいは、ちょっと目標設定が、ご指摘もあったけど、90%以上とかは高過ぎるんじゃないかなとか思うところもあったりとか、例えば私は堺市民なんですけれども、お昼間はこういう大学のほうに働いて、こういう会議で住吉区のことをよく知る機会があって、自分の地元の堺市の何々区みたいなところでどんな団体があって、どんな活動をしているか全然知らないわけです。お祭りが、こっちでこんなのあるのか、こっち行きたいなど、こっちの住吉区のほうへ行きたいなど思うけども、多分住吉区のアンケートに、私は対象には入っていなかったりとかするのかなと思うので、逆なこともしかりで、多分住吉区はかなり住宅も多いと思うんですよね。分からないんですけども、お昼間の人口と夜の人口の差ってあって、お昼間はどこか別のところに働きに出かけているという人は、多かれ少なかれそういうふうな意識になるわけかもしれないので、高いほうが数値がいいんだというのとか、あるいは90%とかというのは、そもそも客観的にそこに入れない人が何割かいるという現実に対して、ちょっと無理な設定をしていないかなという感じたりもするわけです。

なので、この括弧書きで、令和3年度は例えば60%以上の目標が、この2年間ぐらいの間に90%に跳ね上がったとか、右肩上がりの目標設定するのはどうなのかなと。かなり無理がかかってしまう。達成できなかった、達成できなかった、何をしようかとなるので、問題の本質は何かということ特定したほうがいいかなと。そのときに数値調査って、やっぱりどこの世界とか、どこの社会でもやっているところはありますけど、結構その弊害も出てきているんじゃないかなと思うんです、この10年、20年ぐらいの間に。数値主義といますか、目標管理主義とか評価主義ということ。だから、ちょっとそのアンケート自体も精査してもよろしいんじゃないかなと。これは役所の中でしか、多分検討しにくいかもしれないんですけども、そのことに膨大な労力を割くよりは、その労力を、こういうところの意見で出されたこととか、あるいは実感として、経験として感じられることに重点的に投じていくとか、ちょっとそんなことをやる段階にあってもいいかもしれないかな

と思ったりもしました。

すみません、ちょっと話長くなったんですが、ほか、もうちょっと時間ありますので、委員の皆様、いかがでしょうか。特にご発言、まだされていない方はぜひお願いできればと思います。

【桶土井委員】 住吉区PTA協議会の桶土井です。最近、地域のことも会議なんかも出席するようになったら、やっぱり成り手がいないということもよく聞きますし、実際、PTAもなかなか成り手がいないというのが、本当に各学校の悩みでもあります。例えば住吉区で育った子どもが大人になって、家庭を持って子どもができて、学校へ行ってPTAというのが一番最初の社会との関わりというか、地域との関わりだと思っているんです。なかなか成り手がいないなどか思うんですけども、例えば、最近もPTA活動も再開されるようになって、各学校頑張って楽しいイベントなんかすると、やっぱり楽しいイベントとなったら、学校だったら結構費用なんか無料とかで参加できて、楽しい思いがあるから、みんな結構参加されてくれていますし、例えば去年なんかから地域の夏祭りとか、盆踊りなんかも再開されると、やっぱり地域の方が来るというのを考えて、やっぱりそこに参加することにメリットがあると、やっぱり参加しようという気が起こりますし、そういうので、やっぱり地域とかそういうPTAなんかでも興味持ってもらって、自分から参加しようというふうにつないでいったらいいなというふうに住つと思っているところです。

だから、さっきの、例えば区の広報紙とかホームページでも、こういう情報を知ったら何か区民の人にメリットがあるとか、こういうイベントなんかに参加したら、楽しかったプラス何か、自分によかったというのがあればいいのかななんて思います。

以上です。

【辻野議長】 ありがとうございます。

ほか、いかがですか。

お願いします。

【榊野委員】 榊野です。次の質問をしようと思ったら、辻野先生に先に言われてしまったんですけども、その90%以上という目標設定がちょっとというのは、パーセントで全て目標を設定するのが無理ではないかということ、次に言おうとしておりました。実数で、例えば去年は100人参加したけども、今年は10人に減った、これはもう物すごい問題ですけども、100人参加したのが120人になった、150人になった、そういう数値でもパーセントでないもので評価ができるような指標もあるのではないかと思いますので、一律パ

一セントというのは、ちょっと考えていただいたほうがよろしいのではないかなというふうに思いました。

【辻野議長】 ありがとうございます。

ほか、いかがですか。時間がそろそろ迫ってはいるんですけども、よかったら簡潔にでも、お一言ずつでも、まだご発言されていない方、よかったらいかがでしょう。よろしいでしょうか。全ての委員の皆様、発言されていない方に限定せずに、一言この機会にということがありましたら。よろしいですか。

お願いします。

【桶土井委員】 最近の情報なんですけれども、インスタグラムで変なアカウントがあって、住吉区の先生というふうに名のっていたアカウントで、何か教師は何かすごいいい職場だみたいな感じの、そういう変なアカウントがあって、今、子どもがインスタグラムなんかを気軽にやっているの、フォロワーを増やしたいために、そういう人にフォローされているとか、そういうのもあって、結構SNSなんかでも危険だなというのがあって、その辺のちょっと扱い方というか、スマホももうすごい低年齢化していますので、その辺もやっぱり再度というか、もうずっと言い続けなあかんという必要性を最近感じております。

以上です。

【辻野議長】 ありがとうございます。

よろしかったらどうぞ。

【山本委員】 ちょっと今度はふわっとした、よりふわっとした話になるんですけど、僕、子どもが6歳なんですけど、来年から小学校に行くので、小学校ちゃんと通えるかなという心配をしたりしているところです。何か不登校にならないようにみたいなことも思いつつ、逆になってもいいのかなとも思いつつ。何が言いたいかというところなんですけど、何か多様性みたいな部分が多分これからってすごい大事になってくるのかなというのを思っていて、今、何かいろいろ、何というか世論が変わっていると思っていて、例えばですけど、何か最近子どもがすごいマイクラフトというゲームをすごいするんですけど、何か教育用のマイクラフトとか今、出ていたり、要はそれでプログラミングを学んだりとか、あるいは、やっぱりChatGPTみたいな話、今すごい出ていて、それを多分勉強しないと、きっと将来的にはもう働くのも遊ぶのもしないよみたいな時代が来るんだらうなとか思っていて、そういった新しいことであるとか、あるいは幅広いところに対

して、小学校とか、もしかしたら生涯学習みたいなところにもつながるかもしれないですけど、何か、どう取り入れていくというか、どういうふうに接していくみたいなところで、もし考えがあったら教えていただきたいなど。それを踏まえて、小学校は楽しいよと子どもに言いたいなと思ったりしたんですが。

【山田教育文化課長】 教育文化課の山田でございます。非常にありがたいご意見かなというふうに思います。ただ、なかなか学校の中で新しいICTが取り入れられまして、プログラミングの授業なども進んでいるとは聞いておりますが、その後にChatGPTが非常に話題になりましたけれども、そういったところまでなかなか至っていないところかとは思いますが。こういったことが地域の中で、生涯学習に限らず学びの場として自発的につくられていくと、非常にすばらしい世界になっていくのかなというふうなことは感じます。なかなか、ちょっと今、既存の小学校の教育の中でというのは難しいことかとは思いますが、心にとどめておきたいなというふうに今、思いますし、こういうことが広がることを望んで、期待したいと思えます。

以上でございます。

【辻野議長】 ありがとうございます。時間限られた中で、質疑等ありがとうございます。この場で、時間の制約でご意見を出せなかった方がいらっしゃるかもしれませんが、時間の都合上、次に進まないといけないので、ほかにご意見等おありの方は、メールやファクス等受け付けているということです。区役所の政策推進課のほうへご連絡いただきたいということです。個別に、例えば私宛て、私に声をかけていただいても、次回以降の議題に反映させていきたいと思えますので、そのあたりもそれぞれお願いいたします。

そうしましたら、長くなってしまいまして申し訳ありませんでした。本日の議案はこれで全て終了いたしました。その他の事項に入りますので、区役所のほうから説明をお願いいたします。

【北野（司会）】 辻野議長、どうもありがとうございました。

それでは、その他の事項につきまして、私からご説明申し上げます。

次第の5番目、その他の事項の1点目、第2回の住吉区政会議は令和5年9月7日木曜日の午後6時30分より開催を予定しております。また、順番が前後しますが、第2回将来ビジョン検討会は令和5年7月13日木曜日の午後6時30分より開催を予定しております。冒頭でも辻野議長よりお伝えいただきましたが、お配りしておる封筒の中には次期将来ビジョンの素案が入っております。お目を通していただき、検討会当日はご持参の上ご出席

いただきますよう、よろしくお願いいいたします。なお、封筒にはご意見シートも同封しております。住吉区将来ビジョン2028素案と令和5年度第1回住吉区区民意識調査結果報告書をご覧くださいまして、それぞれにご意見がある場合は、7月7日金曜日までに郵送、ファクス、メール等で担当へご意見シートをお送りいただきますようよろしくお願いいいたします。また、第2回将来ビジョン検討会の出欠につきましても同様に、7月7日金曜までに電話、メール等でご連絡いただきますよう併せてよろしくお願いいいたします。

その他の事項の2点目です。各会議の開催日程ですが、昨日6月29日に令和5年度第1回住吉区地域福祉専門会議を開催しております。また、令和5年度第1回住吉区防災専門会議は7月5日水曜日に、令和5年度第1回住吉区総合教育会議は8月21日月曜日に開催を予定しております。

以上となります。

それでは、ここで本日までご出席いただいております議員の皆様より、一言お願いいしたいと思っております。

まず、くぼた議員。

【くぼた議員】 お疲れさまでございました。私、初めてこのようにして参加させていただきましたまして、大変勉強となります。生まれが墨江で、ずっと住吉に関わってきましたので、大変勉強となっております。また、引き続きいろんな意見を聞かせていただきながら、私ができることをまた頑張っていきたいと思っております。本日はお疲れさまでございました。ありがとうございます。

【北野（司会）】 伊藤議員、よろしくお願いいいたします。

【伊藤議員】 皆様、お疲れさまでございます。

私からちょっと2点だけ、気になったことをお伝えさせていただきたい。今、ちょっとSNSの話がたくさん出たんですけども、ちょうど区役所のインスタを見たら、フォロー一数は結構ほかの区に比べて多いんだなというのを、ちょっとびっくり、よかったなど、いいなと思うんですけど、ちょこちょこコメントをしてくださっている方がいるんですけど、ちょっとコメントにコメントを返せていないのが、ちょっともったいないのかなと思えました。

あともう1点、最近すごく感じるのが、住吉区内の、区内だけじゃないかもしれないんですけども、学校が荒れているという、ちょっと声をよく耳にするんですけども、直接保護者の方からも私のところにすごく多く相談をいただいている、聞けば聞くほどなんで

すけれども、先生大変だなというのが本当に思うんです。学校って閉鎖されていますし、何というんですか、教育委員会も各学校まで、そこまでやっぱり目って行き届かないのかなと。区役所ってそういう情報、一番早く入ってくると思いますので、学校を、またその先生のフォローをするという目でもしっかりちょっと見ていただきたいなと思います。ちょっと先生が病んでしまったという声もよく聞くので、ぜひよろしく願いいたします。

【北野（司会）】　　続きまして、中田議員、お願いします。

【中田議員】　　皆さん、ご苦労さまでございます。多岐にわたる区政運営のご論議、本当にお疲れさまでございます。この結果を通していろいろやり取り、議論されておりましたが、しかしながら、いいところもたくさんあると思います。例えば、災害時の高齢者、障がい者などの支援ということも、目標設定が115町会以上になっていますが、達成したのが114町会、また、子ども施策においても、設定目標に対してかなりの割合で達成している。これは大いに評価していいと思います。何か、お話を聞いておったら、どうしてもこの現代、いろんな問題多岐にわたっておりますので、どうしてもやることもたくさんあります。そっちのほうに目がいって、否定的な部分も感じる場所もあると思うんですが、こうして数字の部分で見ますと、評価してもいいところがたくさんあると思いますので、どうかその部分、大事にしてください、また区政運営進めていっていただきたいと思えます。

【北野（司会）】　　井上議員、お願いします。

【井上議員】　　本日は区政委員の皆さん、また職員の皆さん、長時間の会議大変お疲れさまでございました。

今日はグループディスカッションがないので、ちょっと物足りないような、寂しいような気もいたしますけれども、この区政会議、私もずっと参加させていただいてございまして、非常にこの議論が深化しているなというのを感じてございます。深まるほうの深化ですけれども、地域の課題や魅力があぶり出されて、地域課題の見える化が非常に進んでいるなというふうに感じております。これはおべんちゃらでも何でもなくて、そういうような実感として非常に感じているところでもあります。それはやっぱり運営上の工夫をさせていただいたり、パネルディスカッションもその一環ですし、必ずこの議論の中身や成果を広報などでフィードバックしていただいているというのが非常に大きい要因ではないかなというふうに思いますので、引き続きこの区政会議の深化、発展にぜひ努めていただければなというふうに思っております。

最後に1点だけ、もう時間が来ておりますのでちょっと恐縮なんですけども、教えていただきたいんですが、広報の、7月の直近の広報に、「第49回すみよし区民まつりの出演者・出展者募集します」とあるんですけども、この応募状況というのは今どんな状況になっているのかという、舞台出演者とかブース出展者・すみよしグルメ出店者・フリーマーケット出店者とあるんですけど、というのは、もう相当応募来ていますというのであればほっとするんですけど、安心なんですけれども、非常に物価が上がって、町のご商店とか事業者の皆さんも、大変ご苦労なさっていると思うんですよね。そういう意味では、なるべく多くのご商店の皆さん、あるいは飲食店の皆さんとか、一過性の支援にしかありませんけれども、なるべく多くの方に参加していただいて、にぎわいにもつながりますし、そんなことをちょっと問題意識として持っておるんですけども、今のこの応募状況なんていうのはどんな状況でしょうかね。

【小林地域課長】 地域課長の小林です。

今、応募したばかりですので、まだ募集に達しているわけではございませんけれども、昨年以前から参加いただいているグルメの方であったり、店舗であったり企業、そういったところの募集が順次来ているというような状況でございますので、また満杯に、例年なっておりますので、我々のほうもいろんな形で広報してまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【北野（司会）】 それでは、最後に区長より一言お願いします。

【平澤区長】 区長の平澤です。本日、活発な議論、本当にありがとうございました。非常にたくさんのご意見、グループディスカッションではなかったんですけども、出していただきまして、大変ありがたく感じております。

運営方針の振り返りということで、今回ご意見いただきまして、皆様方から本当に温かいお言葉をいただいて、非常に痛み入っておるところでございます。いろいろご意見いただいた中で、情報発信について、SNSというのは手法でということでおっしゃっていただいて、中身、どのようにやっていくのかというのを、数値だけではなくて実際に現場でいろんなイベントなり地域活動をやっていただいている方の肌感覚も参考にしてやっていったらいいんじゃないかということは、非常に感銘を受けまして、やはり実際チラシとかポスターで、結構見てイベント参加される人って結構多いなというお話はいろんなところでもお聞きしています。ですので、そういった場もきっちりつくっていくのを、やっぱり中身のつくり込みというのが、どうしても行政のチラシ、ポスターというのも、情報量が

非常に詰め込み過ぎていて、なかなか見てもらえないものが多いというふうによく言われますので、我々もその辺、大分いろいろと工夫も重ねておりますので、またお気づきの点等もありましたら、またそのあたり、指摘もいただいて、よりよいものにつくっていききたいなと思っております。また、若い方への参加ということでいいますと、先ほど大学の話も出ましたけれども、若い方なんかにそういうものをちょっとつくってもらうとか、そんなこともいいのかなというふうにもちょっと考えておりますので、そういった形で発信の強化というのは努めていきたいと考えております。

また、地域活動の関係で言いますと、やっぱりなかなか地域に本当に、先ほど渡邊委員からもありましたように、地域、本当に工夫して、いろんな取組をやっていただいている、非常にありがたく思っております。それがなかなか情報発信として伝わっていないというのが非常に我々も残念に思っているところで、それをどういう形で活動の状況を伝えていくかというあたりも、また皆様方のお知恵もいただいて、また次期将来ビジョンにも反映していけたらいいかなと思っておりますのでございます。

また、評価も数値だけではなかなか測れない部分があるという非常に温かいお言葉をいただいて、本当にありがたいんですが、やっぱり一定何か目標というのを掲げないと、なかなかそこに向かっていくという、何というんですか、その推進力にならないというところもありますので、目標は立てつつ、あまりちょっと高過ぎる目標というよりも、やはりある程度実現可能性もありつつ、やはり努力もするような、そういった、ちょっと落としどころも見据えながら、目標数値も設定していくということも必要かなと思っております。また、パーセントだけではなくて、件数、人数といった立て方もあるのかなと、そのあたりもちょっと幅広めに、我々としても考えてまいりたいと思っております。

また、学校が荒れているといったご指摘もいただいたところですので、コロナ明けで実際街頭犯罪的なものも増えているといった状況もあるので、子どもにおいても、ちょっとそういった荒れている部分が出てきているのかなとも思います。また、学校の先生方、非常に忙しいというお話、我々も聞いておまして、学校の補助スタッフの支援の経費なんかもちょっと上積みしたりとかいった形ですとか、学校によっては、いわゆる管理職なり、いわゆる副校長的なポストをつけてもらうようなお願いをしたりといったことも、個別にはできる範囲ではやっていきたいと考えておりますので、また地域の皆様方の声も聞かせていただいて、取組を進めていきたいと考えております。

また、山本委員ご指摘いただいたプログラミングとか、そういったいわゆる最先端の技

術を使ったものというのは、やはり子どもたちに身につけていってもらいたいなということで、大阪市全体としてももちろんやっていく方向にはなっているんですけども、なかなか進んでいない部分もありますので、逆にそういった最新の情報も我々はインプットしていただければ、また学校のほうとも話ができるのかなというふうに思っているところでございます。

本日、グループディスカッションがなかったんですが、本当にいろんな意見いただいて、この意見また第2回のビジョン検討会におきまして、また我々、ぎゅっと今日封筒に詰めてお持ち帰りいただく中身に、今までの議論をできるだけ反映したつもりではおりますが、まだまだ不十分なところもあるかと思えます。また、お忙しい中ですがお目通しいただきまして、7月13日の議論で、またいろいろご意見いただけたらと思っておるところでございます。本当に本日は長い時間ありがとうございました。

【北野（司会）】　これで本日の会議は終了いたしました。

委員の皆様には、円滑な会議進行にご協力をいただきありがとうございました。

これで第1回住吉区区政会議を終了いたします。本日は長時間にわたりありがとうございました。

―― 了 ――